

26日

泥だらけになりながら こども園つみき園児が田植え

こども園つみき(油谷諭園長)のきりん組園児と保護者ら約40人が、錦町の保田さんの水田で田植えを行いました。

今年度から、町土地改良区の職員も手伝いで参加。園児たちは、お父さんやお母さんたちと一緒に田んぼに入り、楽しそうに苗を植えていました。

この行事は、同園の食育の取り組みとして、町の特産物であるお米に興味・関心を持ってもらうために実施しているもの。

今後は、散歩時の生育観察や収穫体験のほか、収穫したお米をおにぎりにして食べる予定とのこと。



真剣な表情で苗を植える園児たち

27日

あつまを元気にする会が花壇整備

あつまを元気にする会(池川徹会長)が、町商工会そばの敷地に所有している花壇で花の植栽作業を行いました。

当日は、会員7人のほか、厚幌ダム作業所から3人の職員が参加。花壇は、植えられた色鮮やかな花でいっぱいになっていました。



花壇の前で記念撮影

29日

15周年を迎えた「ルーの会」が フリーマーケットを開催

地域通貨導入のため、ルーラル地区を中心に発足されたルーの会が、ルーラルマナビィハウス駐車場で恒例のフリーマーケットを開催。

今年は同会発足15年目を記念して、山口農園(宇隆)の移動ハスカップカフェが出展し、来場者からハスカップの育て方についての質問がたくさん飛び交っていました。

また、市街地からも多くの子どもたちが来場し、駄菓子屋やフリーマーケットなどで会場は賑わっていました。



森の駄菓子屋さん

31日

厚真町建設協会が花植えを実施

厚真町建設協会(鈴木英毅会長)が、厚真大橋たもと付近の花壇整備を行いました。

今年は花壇を3つ増やし計7つの花壇を作成。重機を使い、枠付や土おこしを行った後、会員の16社(16人)がシートをかけ、約850株の花を植えていました。

鈴木会長は「町内外の皆さんに喜んでもらいたい」と、話していました。



重機を使っての花壇整備



花壇と一緒に記念撮影

11日

豊穡の秋を願い厚真ダム水神宮で取水式

町土地改良区(山田英雄理事長)主催による取水式が、厚真ダム水神宮で行われました。

取水式には、土地改良区、町、町議会、JAとまこまい広域、農業委員会、農業共済組合、地元自治会関係者など約35人が参列し、今年も1年水が枯れることなくすべての用水に水が行きわたり、秋の落水まで干ばつ被害がなく、上質米が収穫できるようにと願いを込めて玉串を捧げていました。



干ばつ被害なく出来秋を願う参列者

16日

自然の恵みに感謝 11回目の「御田植祭」

森田明央さん(桜丘)の水田で、11回目となる胆振青年神職会・日高青年神職会合同による「お田植事業」が行われました。田長の森田さんと会員6人、巫女1人が参加し齋行され、早乙女姿の巫女によるお田植の後、会員が心を込めて苗を植えました。

この事業は、日本の伝統行事である人の手による田植えを青年神職自らが体験し、農業の苦労や自然の恵みへの感謝の心を身をもって経験するという意義のもと、平成17年から同水田で実施されています。収穫された稲穂やお米は、伊勢神宮や胆振支部・日高支部の各本務神社(計24社)に奉納されます。



神田に苗を植える早乙女姿の巫女

26日

子どもたちの健全育成に向け活動 厚子連総会

厚真町子ども会育成連絡協議会(厚子連)総会が、総合ケアセンターゆくりで開催され、役員・会員ら約20人が出席しました。

総会では、昨年度の事業や会計決算報告と今年度の事業計画・会計予算について審議された後、役員改選が行われ、尾谷純司さんが会長に、今年度から新設された相談役に野澤政博さんと三上保子さんが選出されました。

また、5月21日に苫小牧市で行われた平成28年度胆振地域子ども会育成連絡協議会(胆子連)表彰式の受賞報告があり、子ども会活動に10年以上尽力され個人の部で会長賞を受賞された尾谷純司さん、宮本好美さん、畑嶋朝江さんの3人は、喜びをかみしめていました。



新会長の尾谷純司さん